

不登校生の進路柔軟に

通信、定時制やフリースクール

不登校の子どもや保護者を対象にした進路相談会が、福井市の福井大教育実践総合センターで開かれた。不登校を経験した県内の子どもたちの保護者8人が、子どもが進んだ通信制、定時制高校やフリースクールを紹介。「先が見えない不安は大きいだろうが生き方に正解はない。自分に合った選択肢を柔軟に選び取ってほしい」と語りかけた。

8月に鯖江市で不登校をテーマにした集いを開いた梶真由美さん(42)や、福井市内でフリースクールを開

福井 経験基に保護者語る

小野寺玲さん(29)が主催。福井大で定期的に開かれている「子どもの悩み110番」に合わせて初めて企画し、約20人が参加した。嶺北に住む女性(48)の高2の娘は、小学6年から中学1年にかけて不登校になり、現在は定時制高校に通う。「担任の先生が教室にホットプレートを持ち込んで料理を振る舞ってくれたり、流しそうめんをしてくれたり、本当に一生懸命でありがたい。娘は『友達は少ないけれどさみしくない。大丈夫』と話している」と語った。



不登校の子どもの進路相談会で語り合う参加者＝福井市の福井大文京キャンパス

「娘は中学の時、学校の週1回、レポートを提出し先生が大嫌いと言っていたに登校し、ほかの日は絵をた。先生もやんちゃな娘の描いたり、音楽活動をしたことが嫌いだっと思つた」。りし、好きなことを楽しんで別の母親は県内の通信制高でいるという。友達とお泊まり会をするなど高校に進

んでから笑顔が増えた。母親は「自分の趣味を充実させたい人には通信制は合っているかも」と助言した。私立高に通う娘の母親は、入学前に子どもが高校のオープンスクールに足を運ぶだけでなく、親自身が学校に出向き、子どもの特性や親の考えを教員に伝えておくことが大切と強調した。各保護者は、子どもが通う学校の授業のレベルや定期試験、部活動についても詳しく紹介した。参加者は熱心にメモを取り、終了後は連絡先を交換していた。参加者は「中学では定時制やフリースクールについての情報はあまりもらえず、こういう機会があれば」と話していた。今回「子どもの悩み110番」には不登校や進路などに関する14件の相談が寄せられた。(宇野和宏)